

東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社の基礎的電気通信役務に係る効率化のための具体的方策並びに基礎的電気通信役務支援機関の平成20年度事業計画について

<目 次>

○報告の概要等

(別添資料)

- ・平成20年度における基礎的電気通信役務に係る設備利用部門の費用の効率化の計画について(写)
(東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社)
- ・平成20年度事業計画等認可申請書(写)
(基礎的電気通信役務支援機関)

- ◆ H18.11.21 情報通信審議会においてユニバーサルサービス制度に係る交付金の交付等の認可の際、NTT東西に対する経営効率化について要望。

これを受け、総務省は、NTT東西等に対し行政指導を実施。

審議会からの要望（H18.11.21）

▶ 経営効率化の推進（審議会 ⇄ NTT東西、行政）

- NTT東西が交付金を受けるに際し、一層の効率化を行い赤字の縮小に努めるため、以下を要望。
- ▶ 交付金の交付に当たり、設備利用部門の費用について7%の経営効率化を前提としているため、毎年、ユニバーサルサービス収支表の提出に併せて、その実績を総務省に報告すること。
- ▶ **総務省は、上記の経営効率化について、十分な検証を行うことが必要であり、そのための方策を講ずるとともに、当該検証結果については、審議会に対し報告等を行うこと。**

基礎的電気通信役務の提供に関し講ずべき措置について（H18.11.22）

▶ 基礎的電気通信役務の提供に係る経営効率化の推進

（総務省 ⇄ NTT東西）

- ▶ 今回の交付金の算定は、貴社において、設備利用部門の費用について約7%の経営効率化を行うことを前提としている。このため、貴社が基礎的電気通信役務の提供において当該効率化を達成することが重要。
- ▶ NTT東西は、交付金の算定に用いた経営効率化率(7%)の達成度合い(実績)を総務省に報告すること。
- ▶ 毎年度の事業計画の認可申請の際に、**基礎的電気通信役務に係る効率化のための具体的方策について報告すること。**

報告のポイント

- ① H20年度もNTT東西ともに、設備利用部門の費用について、7%の効率化を継続（東：▲129億円、西：▲101億円）
- ② 人員のスリム化(東：4.3万人(H19年度)→3.8万人(H20年度) 西：5.4万人(H19年度)→4.9万人(H20年度))
- ③ 料金業務等の拠点の集約・アウトソーシングの効率化の実施

NTT東西の主な効率化計画

人員数の削減

■ NTT東日本

| 【H18実績】 | 【H19推計】 | 【H20計画】 |
|--------------|--------------|--------------|
| 4.8万人 | 4.3万人 | 3.8万人 |
| 対前年 | (▲ 0.5万人) | (▲ 0.5万人) |

※上記の人員数には、アウトソーシング会社の人員を含む。

■ NTT西日本

| 【H18実績】 | 【H19推計】 | 【H20計画】 |
|--------------|--------------|--------------|
| 5.8万人 | 5.4万人 | 4.9万人 |
| 対前年 | (▲ 0.4万人) | (▲ 0.5万人) |

※上記の人員数には、アウトソーシング会社の人員を含む。

業務拠点集約・アウトソーシングの効率化

- 116業務の拠点集約、アウトソーシングの効率化
- 加入権取扱い業務の拠点集約、アウトソーシングの効率化

- 夜間116受付業務の拠点集約
- 加入権取扱い業務の拠点集約

その他

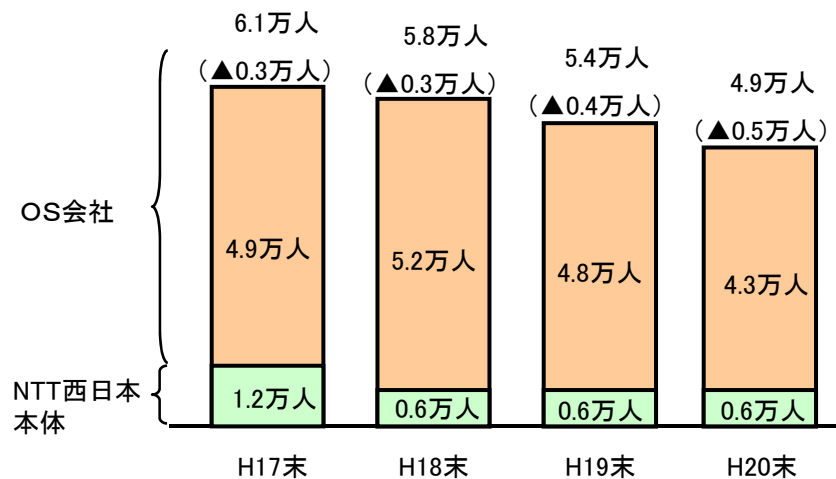
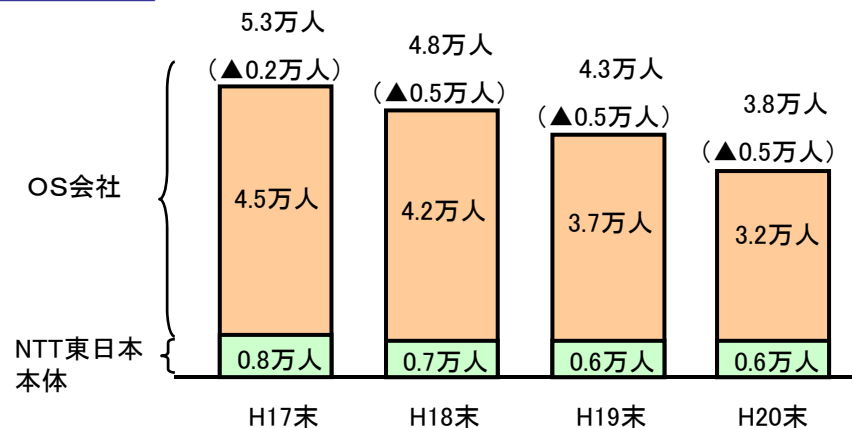
- 社宅等、不動産売却による保有コストの削減
- @ビリング利用増による料金請求費用の抑制 等

- 社宅等、不動産売却による保有コストの削減
- Myビリング利用増による料金請求費用の抑制 等

NTT東日本

NTT西日本

人員のスリム化



※1 年度末に退職・再雇用する人員を含む。
 ※2 H19末及びH20末については推計値である。

業務の集約

| | 施策の内容 |
|----------|--|
| 116業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・43拠点を半数程度に集約するとともにアウトソーシングによる効率化を実施。 ・平成19年10月より順次実施。 |
| 加入権取扱い業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・18拠点を1拠点に集約するとともにアウトソーシングによる効率化を実施。 ・平成20年7月より順次実施。 |
| 料金業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・審査業務、回収業務、料金問い合わせ業務等を対象に拠点を集約(71拠点を9拠点に見直し)するとともにアウトソーシングによる効率化を実施。 ・平成19年3月より順次実施 |

| | 施策の内容 |
|----------|--|
| 116業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・夜間受付業務を対象に拠点を集約(28拠点を20拠点に見直し)。 ・平成20年6月より順次実施。 |
| 加入権取扱い業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・15拠点を2拠点に集約。 ・平成20年7月実施。 |
| 料金業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・審査業務、回収業務、料金問い合わせ業務等を対象に拠点を集約(70拠点を54拠点に見直し)。 ・平成20年4月より順次実施 |

NTT東日本

| | H18実績 | H19見込 | H20計画 |
|---------------------------|---------|---------|---------|
| 基礎的電気通信役務に係る 設備利用部門の費用 | 1,984億円 | 1,845億円 | 1,716億円 |
| 効率化率 | | ▲7% | ▲7% |

効率化額
▲129億円

NTT西日本

| | H18実績 | H19見込 | H20計画 |
|---------------------------|---------|---------|---------|
| 基礎的電気通信役務に係る 設備利用部門の費用 | 1,546億円 | 1,438億円 | 1,337億円 |
| 効率化率 | | ▲7% | ▲7% |

効率化額
▲101億円

事業計画・収支予算のポイント

- ① **支援業務費は約0.80億円（約0.75億円(H19年度)）**
 - ・前年度予算に比べ、周知広報費を充実(約0.37億円(H19年度) → 約0.41億円(H20年度))。
 - ・なお、交付金交付・負担金徴収業務を行うことから、全体の収支予算は約115億円程度となっている。
- ② **効率的かつ多面的な周知広報の実施**
 - ・前年度までの実施結果を踏まえ、新聞広告やコールセンターを効率的に活用。
 - ・さらに、ユニバーサルサービス制度のより一層の周知を図るため、インターネットの活用や地方説明会等を実施。
- ③ **予備費の計上**
 - ・これまでの予算作成過程を踏まえ、費目ごとのスリム化を図るとともに、予備費300万円を不測の事態に備え新規に計上。

【平成20年度収支予算】

(単位:千円)

| | 平成20年度予算額 | 平成19年度予算額 |
|---------------|-------------------|-------------------|
| 収入 | 11,530,102 | 12,748,278 |
| 負担金収入 | 11,448,228 | 12,673,777 |
| 借入金返済引当資産取崩収入 | 1,563 | — |
| 借入金収入 | 65,311 | 68,501 |
| 前期繰越収支差額 | 15,000 | 6,000 |
| 支出 | 11,530,102 | 12,748,278 |
| 交付金支出 | 11,381,290 | 12,550,241 |
| 支援業務費 | 80,311 | 74,501 |
| (再掲) 周知広報費支出 | 41,424 | 36,710 |
| (再掲) 予備費支出 | 3,000 | — |
| 借入金返済支出 | 68,501 | 123,536 |

【参考】 平成20年度支援業務費の詳細（主な費用の昨年度決算額（概算）との比較）

| 区分 | 平成20年度予算額 | 平成19年度決算額 (概算) | 増減等の説明 |
|-------------|-----------|-------------------|---|
| 人件費 | 23,763千円 | 22,378千円 | 前年度決算比 +1,385千円 (派遣社員1名を契約社員に変更したことに伴う福利厚生費等+426千円 他) |
| 物件費等 | 12,124千円 | 13,160千円 | 前年度決算比 ▲1,036千円 (賃借公益費+952千円、音声等自動応答システム整備費▲2,968千円 他) |
| (再掲) 諸謝金 | 3,185千円 | 3,277千円 | 前年度決算比 ▲92千円 ○平成20年度予算額の内訳 ・企業倒産、未納対策顧問弁護士 年額960千円(▲240千円) ・監査関係費用等 2,008千円(+131千円) ・支援業務諮問委員会委員謝金 217千円(+17千円) |
| 周知費用 | 41,424千円 | 23,763千円 | 前年度決算比 +17,661千円 ○平成20年度予算額の内訳 ・新聞広告 15,000千円(+1,998千円) - 平成19年度と同様、11月下旬を目途に「半2」サイズにて1回実施。 ・パンフレット作成費 1,000千円(+609千円) - 平成19年度と同様、2万部作成し、各種団体・電気通信事業者等に配布。 ・ホームページ更改、更新、保守管理 1,350千円(+974千円) ・コールセンター 20,424千円(+10,430千円) - 番号単価改定後の問い合わせの増加が予測されることから、受付体制を拡大。 ・インターネット広告 2,000千円(+2,000千円) - より一層の周知を図るため、新規に計上。 ・地方説明会等 1,650千円(+1,650千円) - より一層の周知を図るため、新規に計上。 |
| 予備費 | 3,000千円 | — | 前年度決算比 +3,000千円 ※不測の事態に備えるため、新規に計上 |

| | | |
|---------|----------|----------|
| 支援業務費総額 | 80,311千円 | 59,301千円 |
|---------|----------|----------|

1 ユーザからの問い合わせ状況等

(単位:件)

| | 平成19年 | | | | | | | | | | | | 平成20年 | |
|---------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
| 総務省等 | 675 | 539 | 305 | 151 | 82 | 93 | 73 | 60 | 56 | 55 | 39 | 49 | 35 | 51 |
| 支援機関※1 | 604 | 486 | 274 | 138 | 67 | 80 | 67 | 50 | 51 | 47 | 35 | 43 | 30 | 40 |
| 総務省※2 | 71 | 53 | 31 | 13 | 15 | 13 | 6 | 10 | 5 | 8 | 4 | 6 | 5 | 11 |
| 民間事業者※3 | 6,729 | 27,487 | 33,439 | 15,797 | 10,284 | 5,502 | 5,008 | 4,187 | 4,485 | 3,873 | 2,647 | 3,461 | 3,286 | 2,842 |
| 合計 | 7,404 | 28,026 | 33,744 | 15,948 | 10,366 | 5,595 | 5,081 | 4,247 | 4,541 | 3,928 | 2,686 | 3,510 | 3,321 | 2,893 |

(※1:平成18年9月16日設置 ※2:地方支分部局分を含む ※3:NTT東西、ドコモグループ(9社)、KDDI、ソフトバンクテレコム、ソフトバンクモバイルの主要14社の合計値)

2 ユーザからの主な問い合わせ内容

- ユニバーサルサービス制度の概要について(ユニバーサルサービスの内容、制度の仕組み・制度の必要性 等)
- ユニバーサルサービス料について(負担金を利用者に転嫁する事業者の説明が不十分 等)
- NTT東西の経営状況について(黒字なのになぜ補てんが必要か 等) など

(参考) ユニバーサルサービス制度に関するポータルサイトのアクセス数

(単位:回)

| | 平成19年 | | | | | | | | | | | | 平成20年 | |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|
| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
| 支援機関 | 75,143 | 22,880 | 38,719 | 19,647 | 15,164 | 15,270 | 13,393 | 11,406 | 10,855 | 14,602 | 9,408 | 20,234 | 11,561 | 9,603 |
| 総務省 | 21,270 | 16,974 | 13,394 | 12,733 | 7,915 | 5,953 | 6,008 | 5,667 | 5,208 | 5,834 | 5,572 | 5,574 | 5,873 | 5,516 |

総務省総合通信基盤局長
寺 崎 明 殿



東経企営第07-186号
平成20年2月29日

東日本電信電話株式会社
代表取締役社長
高 部 豊 彦

平成20年度における基礎的電気通信役務に係る 設備利用部門の費用の効率化の計画について

弊社は、従来から経営効率化に取り組み、業務の抜本的アウトソーシングと退職再雇用の仕組みによる人件費の削減、人員のスリム化、物件費の効率化、資産のスリム化等、あらゆる費用を対象に効率化に努めてきているところであります。

平成20年度においても、引き続き、人員のスリム化、業務の集約・アウトソーシングによる効率化の実施、資産のスリム化等に取り組むことにより、一層の効率化に努めていく所存であります。

これらの施策を着実に実施することにより、ユニバーサルサービスに係る設備利用部門の費用については、昨年度と同様、対前年度比▲7%の効率化を計画いたします。

なお、具体的な施策については別紙のとおりです。

(別紙)

具体的な施策について

| 項目 | 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------------------------|-------|-------|-------|--|--|----------|----------|---------------|-------|-------|-------|
| 人員のスリム化 | <table><thead><tr><th></th><th><H18実績></th><th><H19>^{※3}</th><th><H20>^{※3}</th></tr></thead><tbody><tr><td>年度末人員数^{※1、※2} (対前年度増減)</td><td>4.8万人</td><td>4.3万人</td><td>3.8万人</td></tr><tr><td></td><td></td><td>(▲0.5万人)</td><td>(▲0.5万人)</td></tr><tr><td><内訳> NTT東日本本体</td><td>0.7万人</td><td>0.6万人</td><td>0.6万人</td></tr></tbody></table> <p>※1 人員数はNTT東日本及びアウトソーシング会社の合計。 ※2 年度末に退職・再雇用する人員を含む。 ※3 H19末及びH20末については推計値である。</p> | | <H18実績> | <H19> ^{※3} | <H20> ^{※3} | 年度末人員数 ^{※1、※2} (対前年度増減) | 4.8万人 | 4.3万人 | 3.8万人 | | | (▲0.5万人) | (▲0.5万人) | <内訳> NTT東日本本体 | 0.7万人 | 0.6万人 | 0.6万人 |
| | <H18実績> | <H19> ^{※3} | <H20> ^{※3} | | | | | | | | | | | | | | |
| 年度末人員数 ^{※1、※2} (対前年度増減) | 4.8万人 | 4.3万人 | 3.8万人 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | (▲0.5万人) | (▲0.5万人) | | | | | | | | | | | | | | |
| <内訳> NTT東日本本体 | 0.7万人 | 0.6万人 | 0.6万人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 業務の集約・アウトソーシングによる効率化の実施 | <p>○116業務</p> <ul style="list-style-type: none">・43拠点を半数程度に集約するとともに、アウトソーシングによる効率化を実施し、費用の削減を図る。・実施時期：平成19年10月より順次実施。 <p>○加入権取扱い業務</p> <ul style="list-style-type: none">・18拠点を1拠点に集約するとともに、アウトソーシングによる効率化を実施し、費用の削減を図る。・実施時期：平成20年7月より順次実施予定。 <p>○料金業務</p> <ul style="list-style-type: none">・審査業務、回収業務、料金問い合わせ業務等を対象に拠点を集約（71拠点を9拠点に見直し）するとともに、アウトソーシングによる効率化を実施し、費用の削減を図る。・実施時期：平成19年3月より順次実施。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 資産のスリム化 | <p>○空スペースの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none">・集約に伴い廃止した拠点の建物スペースの有効活用のため、空スペースの貸付を推進。 <p>○遊休不動産の売却による保有コストの削減</p> <ul style="list-style-type: none">・社宅等の集約、廃止及び売却により、保有コストの削減を推進。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | <p>○@ビリングの利用増による料金請求コストの抑制</p> <p>○Web受付の推進による効率化</p> <p>○公衆電話利用減に連動したテレホンカード販売委託費の抑制</p> <p>○その他物件費全般にわたる抑制</p> <ul style="list-style-type: none">・ISO14001取得による紙・事務用品経費及び電気使用料の削減等 | | | | | | | | | | | | | | | | |

(参考)

基礎的電気通信役務に係る設備利用部門の費用の効率化について

| | H18実績 | H19見込 | H20計画 |
|-------------------------------|---------|---------|---------|
| 基礎的電気通信 役務に係る設備 利用部門の費用 | 1,984億円 | 1,845億円 | 1,716億円 |
| <効率化率> | | <▲7%> | <▲7%> |

効率化額
▲129億円

総務省総合通信基盤局長
寺 崎 明 殿



西企営第90号
平成20年2月29日

西日本電信電話株式会社
代表取締役社長
森 下 俊 三

平成20年度における基礎的電気通信役務に係る
設備利用部門の費用の効率化の計画について

弊社は、従来から経営効率化に取り組み、業務の抜本的アウトソーシングと退職再雇用の仕組みによる人件費の削減、人員のスリム化、物件費の効率化、資産のスリム化等、あらゆる費用を対象に効率化に努めてきているところであります。

平成20年度においても、引き続き、人員のスリム化、業務の集約、資産のスリム化等に取り組むことにより、一層の効率化に努めていく所存であります。

これらの施策を着実に実施することにより、ユニバーサルサービスに係る設備利用部門の費用については、昨年度と同様、対前年度比▲7%の効率化を計画いたします。

なお、具体的な施策については別紙のとおりです。

具体的な施策について

| 項目 | 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------|-------|-------|-------|----------|--|----------|----------|---------------|-------|-------|-------|
| 人員のスリム化 | <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;"></td> <td style="text-align: center; width: 20%;"><H18実績></td> <td style="text-align: center; width: 20%;"><H19>^{※3}</td> <td style="text-align: center; width: 20%;"><H20>^{※3}</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">年度末人員数^{※1, ※2}</td> <td style="text-align: center;">5.8万人</td> <td style="text-align: center;">5.4万人</td> <td style="text-align: center;">4.9万人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">(対前年度増減)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">(▲0.4万人)</td> <td style="text-align: center;">(▲0.5万人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><内訳> NTT西日本本体</td> <td style="text-align: center;">0.6万人</td> <td style="text-align: center;">0.6万人</td> <td style="text-align: center;">0.6万人</td> </tr> </table> <p style="font-size: small;"> ※1 人員数は、NTT西日本及びアウトソーシング会社の合計。 ※2 年度末に退職・再雇用した人員を含む。 ※3 H19末及びH20末については推計値である。 </p> | | <H18実績> | <H19>^{※3} | <H20>^{※3} | 年度末人員数 ^{※1, ※2} | 5.8万人 | 5.4万人 | 4.9万人 | (対前年度増減) | | (▲0.4万人) | (▲0.5万人) | <内訳> NTT西日本本体 | 0.6万人 | 0.6万人 | 0.6万人 |
| | <H18実績> | <H19>^{※3} | <H20>^{※3} | | | | | | | | | | | | | | |
| 年度末人員数 ^{※1, ※2} | 5.8万人 | 5.4万人 | 4.9万人 | | | | | | | | | | | | | | |
| (対前年度増減) | | (▲0.4万人) | (▲0.5万人) | | | | | | | | | | | | | | |
| <内訳> NTT西日本本体 | 0.6万人 | 0.6万人 | 0.6万人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 業務の集約について | <ul style="list-style-type: none"> ○116業務 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間受付業務を対象に拠点を集約し、費用の削減を図る。 (28拠点を20拠点に見直し) ・実施時期：平成20年6月より順次実施。 ○加入権取扱い業務 <ul style="list-style-type: none"> ・15拠点を2拠点に集約し、費用の削減を図る。 ・実施時期：平成20年7月実施。 ○料金業務 <ul style="list-style-type: none"> ・料金問い合わせ、審査業務、回収業務を対象に拠点を集約し、費用の削減を図る。 (70拠点を54拠点に見直し) ・実施時期：平成20年4月より順次実施。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 資産のスリム化 | <ul style="list-style-type: none"> ○空スペースの有効活用 <ul style="list-style-type: none"> ・集約に伴い廃止した拠点の建物スペースの有効活用のため、空スペースの貸付を推進。 ○遊休不動産の売却による保有コストの削減 <ul style="list-style-type: none"> ・社宅等の集約、廃止及び売却により、保有コストの削減を推進。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ○Myビリングの利用増による料金請求コストの抑制 ○Web受付の推進による効率化 ○公衆電話利用減に連動したテレホンカード販売委託費の抑制 ○その他物件費全般にわたる抑制 <ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001取得による紙・事務用品経費及び電気使用料の削減等 ・メール便の活用による配送費の削減 ・社内システム用専用回線のスリム化による通信費の削減 | | | | | | | | | | | | | | | | |

(参考)

基礎的電気通信役務に係る設備利用部門の費用の効率化について

| | H18実績 | H19見込 | H20計画 |
|---|---------|----------------------|----------------------|
| 基礎的電気通信 役務に係る設備 利用部門の費用 <効率化率> | 1,546億円 | 1,438億円 <▲7%> | 1,337億円 <▲7%> |

効率化額
▲101億円

The diagram shows a box containing '効率化額 ▲101億円' (Efficiency improvement amount ▲101 billion yen). A line extends from the left side of this box to the 'H19見込' (H19 forecast) column of the table above. Another line extends from the right side of the box to the 'H20計画' (H20 plan) column of the table, ending in an upward-pointing arrow.



事業計画等認可申請書

TCA支-032
平成20年3月17日

総務大臣 増田 寛也 殿

社団法人 電気通信事業者協会

会長 三浦 惺

平成20年度事業計画及び収支予算の認可を受けたいので、電気通信事業法第116条第1項において準用する同法第80条第1項の規定に基づき、下記資料を添えて申請します。

記

- 1 平成20年度事業計画書
- 2 平成20年度収支予算書

平成20年度 事業計画

自 平成20年4月 1日
至 平成21年3月31日

総務大臣指定 基礎的電気通信役務支援機関
社団法人 電気通信事業者協会

平成20年度事業計画

ユニバーサルサービス制度が施行されてから、本年度で3年目を迎えることとなり、交付金の交付及び負担金の徴収に係る業務についても、実施後1年を経過し順調に推移してきており、平成20年度は制度の一層の定着化を図るため以下の事業を推進することとする。

1 交付金の交付及び負担金の徴収に係る関係業務の的確な実施

(1) 交付金の交付、負担金の徴収に係る業務の的確な実施

交付金の交付及び負担金の徴収の業務については、実施後2年目に入ることとなる。前年度の実施結果を踏まえ交付金の交付及び負担金の徴収業務をより効率的かつ的確に実施のこととする。

(2) 交付金の額及び負担金の額等についての認可申請の円滑な実施

関係法令に基づき、以下の事務を適切かつ円滑に実施することとする。

- ①法第109条第1項の規定に基づき、交付金の額を算定し当該交付金の額及び交付方法について総務大臣の認可を受けること
- ②法第110条第2項の規定に基づき、負担金の額を算定し当該負担金の額及び徴収方法について総務大臣の認可を受けること
- ③総務省告示第429号（平成18年7月31日）に基づき番号単価を算定すること

(3) 外部監査体制の確立とチェック機能の強化

交付金の交付及び負担金の徴収事務を適正かつ公正・確実に実施するため公認会計士による外部監査体制を確立し、チェック機能の強化を図る。

2 周知・広報活動及び問い合わせ対応の実施

(1) 多面的な周知・広報活動の実施

ユニバーサルサービス制度をより一層の周知を図るため、これまでの実施結果を踏まえ、インターネットの多面的な活用や周知資料の充実、新た

な行事の実施などを行う。

(2) 問い合わせ対応の実施

関係電気通信事業者及び一般利用者からの問い合わせ等が年間を通じて相当数あり、特に番号単価の算定や料金請求書が送付された直後などは問い合わせが増加する。

これら問い合わせに迅速、的確に対応するため支援業務室及びコールセンターによる対応を継続実施する。

3 支援業務諮問委員会の運営

法第113条第2項の規定に基づき、交付金の額及び交付方法並びに負担金の額及び徴収方法、番号単価の算定、その他、支援業務の実施に関する重要事項を調査審議するため開催される諮問委員会の運営に資することとする。

同委員会の開催の時期は、交付金及び負担金の額等の認可申請案等作成時、予算作成時及び修正番号単価算定時の3回を定例開催とする。

4 業務執行体制の整備と関係事務の円滑な推進

支援業務を円滑に実施するため業務執行体制の強化、関係規定の見直し、関係機関との連携強化など引き続き体制の整備に努める。

5 情報公開の実施

支援機関の財務状況、番号単価、交付金及び負担金に係る情報、電気通信事業者のユニバーサルサービス料の設定状況、その他の支援業務に関する情報の公開をホームページや自動音声・FAX案内サービス等を活用して可能な限り実施する。

平成20年度 収支予算

自 平成20年4月 1日
至 平成21年3月31日

総務大臣指定 基礎的電気通信役務支援機関

社団法人 電気通信事業者協会

収支予算書

(基礎的電気通信役務支援機関業務特別会計)

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位：円)

| 科 目 | 予 算 額 | 前年度予算額 | 増 減 | 備考 |
|------------|----------------|----------------|-----------------|----|
| I 事業活動収支の部 | | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | | |
| (1) 負担金収入 | 11,448,228,311 | 12,673,777,284 | △ 1,225,548,973 | |
| (2) 雑収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 事業活動収入計 | 11,448,228,311 | 12,673,777,284 | △ 1,225,548,973 | |
| 2. 事業活動支出 | | | | |
| (1) 事業費支出 | 11,449,640,416 | 12,617,297,284 | △ 1,167,656,868 | |
| 交付金支出 | 11,381,290,416 | 12,550,241,284 | △ 1,168,950,868 | |
| 給料手当支出 | 16,328,000 | 19,060,000 | △ 2,732,000 | |
| 福利厚生費支出 | 2,305,000 | 1,705,000 | 600,000 | |
| 会議費支出 | 52,000 | 172,000 | △ 120,000 | |
| 旅費交通費支出 | 980,000 | 500,000 | 480,000 | |
| 通信運搬費支出 | 896,000 | 800,000 | 96,000 | |
| 備品費支出 | 300,000 | 400,000 | △ 100,000 | |
| 消耗品費支出 | 492,000 | 150,000 | 342,000 | |
| 印刷製本費支出 | 50,000 | 147,000 | △ 97,000 | |
| 賃借公益費支出 | 338,000 | 370,000 | △ 32,000 | |
| 図書費支出 | 50,000 | 100,000 | △ 50,000 | |
| 諸謝金支出 | 3,185,000 | 3,742,000 | △ 557,000 | |
| 周知広報費支出 | 41,424,000 | 36,710,000 | 4,714,000 | |
| 支払利息支出 | 1,800,000 | 3,000,000 | △ 1,200,000 | |
| 雑支出 | 150,000 | 200,000 | △ 50,000 | |
| (2) 管理費支出 | 8,074,000 | 6,942,000 | 1,132,000 | |
| 役員報酬支出 | 780,000 | 780,000 | 0 | |
| 給料手当支出 | 2,972,000 | 2,893,000 | 79,000 | |
| 福利厚生費支出 | 491,000 | 460,000 | 31,000 | |

| | | | |
|---------------|----------------|----------------|-----------------|
| 旅費交通費支出 | 83,000 | 88,000 | △ 5,000 |
| 光熱水料費支出 | 329,000 | 258,000 | 71,000 |
| 賃借公益費支出 | 3,389,000 | 2,433,000 | 956,000 |
| 租税公課支出 | 30,000 | 30,000 | 0 |
| 事業活動支出計 | 11,457,714,416 | 12,624,239,284 | △ 1,166,524,868 |
| 事業活動収支差額 | △ 9,486,105 | 49,538,000 | △ 59,024,105 |
| Ⅱ 投資活動収支の部 | | | |
| 1. 投資活動収入 | | | |
| (1) 特定資産取崩収入 | | | |
| 借入金返済引当資産取崩収入 | 1,563,105 | 0 | 1,563,105 |
| 投資活動収入計 | 1,563,105 | 0 | 1,563,105 |
| 2. 投資活動支出 | | | |
| (1) 特定資産取得支出 | | | |
| 退職給付引当資産取得支出 | 887,000 | 503,000 | 384,000 |
| 投資活動支出計 | 887,000 | 503,000 | 384,000 |
| 投資活動収支差額 | 676,105 | △ 503,000 | 1,179,105 |
| Ⅲ 財務活動収支の部 | | | |
| 1. 財務活動収入 | | | |
| (1) 借入金収入 | 65,311,000 | 68,501,000 | △ 3,190,000 |
| 財務活動収入計 | 65,311,000 | 68,501,000 | △ 3,190,000 |
| 2. 財務活動支出 | | | |
| (1) 借入金返済支出 | 68,501,000 | 123,536,000 | △ 55,035,000 |
| 財務活動支出計 | 68,501,000 | 123,536,000 | △ 55,035,000 |
| 財務活動収支差額 | △ 3,190,000 | △ 55,035,000 | 51,845,000 |
| Ⅳ 予備費支出 | 3,000,000 | 0 | 3,000,000 |
| 当期収支差額 | △ 15,000,000 | △ 6,000,000 | △ 9,000,000 |
| 前期繰越収支差額 | 15,000,000 | 6,000,000 | 9,000,000 |
| 次期繰越収支差額 | 0 | 0 | 0 |

(注) 借入金限度額：ユニバーサルサービス（基礎的電気通信役務）支援機関の業務を円滑に遂行するため、平成19年度末決算における純資産の額を限度として、必要最小限の一時借入を行うことができる。